

## 「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

阿久津 達也<sup>†</sup>

第7号は2001年10月18~19日に同志社大学知能情報センターにおいて開催された、情報処理学会数理モデル化と問題解決(SIGMPS)研究会主催「進化的計算シンポジウム2001」で発表された研究に基づく21編の論文からなる特集号となっております。本特集号への投稿論文数は31件でしたので、採択率は68%となります。なお、第1号から第6号までの論文採録状況は78編/161編で、総採録率は48%でした。また、それぞれの号の採録率は、61%、68%、28%、46%、63%、46%でした。本特集号の採録率はこれまでより高い水準となっておりますが、通常の号と同じ採択基準で論文評価を行っておりますので、シンポジウム特集号ということもあり高い水準にある論文が数多く投稿されたためと思われる。当論文誌では、今後とも、採録率に大きくとられることなく、良い論文を積極的に採録するという方針で進めていきたいと考えております。なお、本特集号は、廣安委員が著者に含まれる論文を鈴木泰博委員および阿久津が担当した以外は、廣安委員がすべての論文を担当いたしました。

第7号は進化的計算に関する特集号ですが、掲載されている論文の内容は、進化的計算に関する理論、アルゴリズム、実問題への応用など幅広いものとなっております。各論文では、進化的計算を核としながらも「数理モデル」および「応用」について議論されており、本論文誌の趣旨に合致するものとなっております。また、本特集号には国内において進化的計算を活発に研究しているグループからの論文が数多く掲載されていますので、国内における進化的計算研究の現状を把握するのににも有用であると思われる。「進化的計算シンポジウム」は2003年1月にも再び開催されること

になっており、本論文誌では2003年度にも「進化的計算シンポジウム」特集号を発行することを予定しております。

本特集号では対象分野が限定されておりますが、本論文誌の通常の号では「数理モデル」が関係すれば、分野を限定せずに基礎理論から応用まで幅広い論文を取り扱うという方針をとっております。そのため、他の論文誌では「分野違い」といって門前払いとなるような論文であっても、適切な査読者を見つけて迅速に評価するように心がけています。また、論文の査読や審査にあたっては、新規性と有用性の両者を求めるのではなく、どちらか一方に十分な価値があれば、それを高く評価するという方針を取っております。

本論文誌は今年度は本特集号も含め3号発行予定であり、来年度も特集号を含め3号発行を予定しております。配布部数につきましては、各号いずれも、これまでどおり1,000部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらもご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべてWWWページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ホームページ(<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>)よりたどることができますので、SIGMPS研究会および本論文誌に関しては、そちらをご参照ください。

最後になりますが、「進化的計算シンポジウム2001」の開催のためにご尽力された三木先生、および、本特集号のほとんどすべての論文を担当し全体のとりまとめも行って下さった廣安先生に、厚くお礼申し上げます。

<sup>†</sup> 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長  
京都大学